

# やさしいこえ

## ■ 楽曲データ

歌詞：三橋あきら 作詞

楽曲：本多鉄磨 作曲

発表：－

初演：－

初出：－

管理番号：M0009

## ■ 創作の経緯

創作の経緯等は不明。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集 こども編』第1巻収録

底資料：『仏教保育聖歌集 100曲集』すずき出版 1974年

比較資料1：『保育資料500号のあゆみ』浄土真宗本願寺派保育連盟 2000年

比較資料2：『仏教讃歌 こどものうた』本願寺出版協会 1973年

比較資料3：『幼児の礼拝・讃仏歌集 善導大師千三百年御遠忌記念』浄土宗総本山知恩院 1980年

校訂の詳細：特になし

## ■ 解説

12月8日、お釈迦さまが悟りをひらかれました。そのお祝いの法要が成道会です。《やさしいこえ》は、成道会のご縁にぜひ歌っていただきたい仏教讃歌。お悟りになったお釈迦さまが、人びとや動物たちに語りかけるさまを描いた、短い劇のような味わいのある作品です。

## ◆ 楽曲について

作詞・作曲は、本連載でお馴染みの本多鉄磨（1905～66、三橋あきらは作詞家としてのペンネーム）です。子どもたちに伝わるようにやさしい言葉で書かれた歌詞は、僧侶であり幼稚園の園長もつとめていた本多ならではといえるでしょう。

お釈迦さまの言葉を集めた聖典『スッタニパータ』に、「一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穏であれ、安楽であれ。」という一節があります（中村元訳『ブッダのことば スッタニパータ』岩波書店、1958年）。人は、

親しい人が辛い思いをしていたら、自分に良いことがあった日でも、「今日は良い一日だった」とは思えないものです。周りの人たちもそれぞれに幸せであること——そこから生まれる幸せに気付くとき、私たちは今よりもっと優しくなれるのではないのでしょうか。その意味で、この曲の歌詞、「みんなよいこになりましょう みんななかよくくらしましょう」は、誰もが幸せであれと願われた、お釈迦さまの思いそのものであると味わいたいものです。

#### ◆演奏のヒント

静かに語りかけるようなイメージで、前奏を弾いてみましょう。全体を通して、クレシェンドやデクレシェンドは極端にせず、ピアノ（弱く）の音量のなかで強弱をつけるとよいでしょう。

この曲のなかで、もっとも大切な部分はどこでしょうか？ タイトル《やさしいこえ》が具体的に指しているのは、13～20小節、お釈迦さまがお話しなさっているところですね。この8小節は、音域がやや高めで、メロディーの雰囲気も変わるため、やさしく歌うのは少し難しいかもしれません。例えば、初めは1番を先生が歌い、2番を全員で歌うかたちにしても良いでしょう。曲に慣れてきたら、「やさしいこえってどんな声かな？」と話し合いながら、皆で歌ってみてください。

#### ◆楽譜・音源について

音源は、CD『ののさまといっしょ ほとけのこどものうた』に収録されています。

解説執筆：田村菜々子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究助手）

※本解説は、「仏教讃歌」No. 84（保育連盟機関誌『月刊保育資料 まことの保育』第688号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.